

自由民主党青年局海外研修（台湾・パラオ）



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

令和5年8月20日から27日まで令和5年自由民主党青年局海外研修(台湾・パラオ)に参加しました。青年局は45歳以下の国会議員や全国の地方議員、自営業者、会社員、学生などの党員で構成されています。青年局に与えられた大きな役割のひとつとして、自民党において国交のない台湾との唯一の窓口となり、毎年日本・台湾間の相互訪問を行うなどの国際交流があげられます。

近年、台湾は半導体産業が急成長を遂げました。日本政府は半導体世界大手の台湾積体電路製造股份有限公司(TSMC)を誘致し、国内最先端の半導体製造工場が熊本に建設されています。半導体に加えて台湾はバイオスタートアップの台頭も目覚ましく、台湾のバイオ産業は著しく成長しています。今回の訪問では、蔡英文総統との意見交換の場において質問が許され、私からバイオ医薬品開発と臨床試験について質問し、総統から直接回答をいただくことができました。

台湾の訪問を終えた後、次にパラオを訪問しました。パラオは第一次世界大戦から第二次世界大戦の間、日本の委任統治下であり、日本の影響を受けた文化が多く残っている親日国です。台湾との外交関係を維持している国の一つでもあります。第二次世界大戦中に行われたペリリュー島の戦いで亡くなった日本軍の戦没者の慰霊を行い、厚生労働省の事業として実施している遺骨収集の現状を視察しました。この戦いにおける日本軍の戦死者は10,022人、負傷者446人、生存者は34人とされています。戦死者の内2,200柱の遺骨は未収集であり、ペリリュー島以外のパラオ共和国内にあるとされている約5,000柱の遺骨も未収集とのことでした。遺族の高齢化も進んでいることから、一日も早い解決が求められています。

